カルメル
霊性センターニュース

宇治カルメル会修道院

2020 年 5 月　　364 号

目次

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２９

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・４１

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・４２

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

【教会からの言葉】

2020年　教皇フランシスコ

ローマと全世界に向けた復活メッセージ

4月12日（日）、「復活の主日」、教皇は、復活したキリストへの信仰に基づく希望のメッセージを告げると共に、世界が直面するパンデミック危機を前に、「今は無関心・利己主義・分裂・忘却の時ではない」とアピールされた。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、復活祭おめでとうございます。
今日、全世界に教会の告げ知らせる声が響きます。「イエス・キリストは復活されました！」「真に復活されました！」

この善き知らせは、新しい炎のように、夜に灯されました。その夜は、今日すでにある様々な挑戦に加え、わたしたち、人類という大きな家族を試練に立たせる、パンデミックの脅威にあえぐ世界の夜です。この夜、教会の声が再び響きました。「わたしの希望、キリストは復活されました！」

それは心から心へと伝わっていきます。なぜならあらゆる人の心は、この善き知らせを待ち望んでいるからです。それは希望の広がりです。「わたしの希望、キリストは復活されました！」それはすぐに問題を消し去るような、魔法の言葉ではありません。キリストの復活は、そのようなものではありません。それは、悪の根源に対する愛の勝利、苦しみや死を「飛び越える」ことなく、深淵の中に道を開き、悪を善に変えながら、それを通過するものです。神の力だけがそれをなしうるのです。

復活の主は、十字架につけられた方です。その栄光ある体は消し難い傷を持っています。その傷は希望を通す場所となりました。復活の主に眼差しを上げましょう。苦しむ人類の傷を癒してくださるようにと。

今日、わたしの思いは、特に新型コロナウイルスによって直接の被害を受けた人々、患者の方々、亡くなられた方々、家族を失い悲しむ遺族の方々に向かいます。その中には、亡くなられた家族に最期の別れもできなかった人々もいます。いのちの主が亡くなった方々を御国でご自身に引き寄せ、お年寄りや身寄りのない人をはじめ、試練にある人々に慰めと希望を与えてくださいますように。

高齢者施設で働く人々、兵舎や刑務所で生活する人々など、特に危険にさらされやすい環境に置かれた人々に、主の慰めと必要な助けが欠けることがありませんように。この復活祭は多くの人々にとって、喪に服すと共に、肉体的苦痛から経済問題に至るまでパンデミックが引き起こした様々な災難に見舞われた、孤独な復活祭となりました。

この感染症は、わたしたちから愛情だけでなく、特に聖体の秘跡やゆるしの秘跡をはじめ、秘跡からわき出る慰めを人々に与える可能性を奪いました。多くの国で、秘跡に与ることができなくなりましたが、主はわたしたちを一人ぼっちにはされませんでした。祈りのうちに一致しながら、主がわたしたちの上に手を置き、力強く「恐れることはない。わたしは復活した、そして、いつもあなたと共にいる」と繰り返されるのを確かに聞きました。

わたしたちの復活であるイエスよ、時には自身の健康までも犠牲にし、あらゆる場所で力の続く限り隣人へのいたわりと愛を証ししている医師や看護師たちに、力と希望をお与えください。また市民の共存に必要不可欠なサービスを保証するために絶えず働く人々、また多くの国々で市民の困難と苦しみを和らげるために貢献する警察や軍の人々に、わたしたちの親愛と感謝を込めた思いを向けます。

ここ数週間、たくさんの人々の生活が突然変わりました。多くの人にとって、家に留まることは、思索し、生活のあわただしいリズムから抜け出し、親しい人々と共にいる時を味わうための機会となりました。しかし、一方で、多くの人々には、仕事を失うリスクや、この危機の影響がもたらす未来の不確かさに不安を感じる時にもなりました。人々の尊厳ある生活に必要な手段を供給し、この状況が改善した際の日常生活の再開に配慮し、市民の共通善の推進のために熱心に働く、政治責任者たちを励ましたいと思います。

今は無関心でいる時ではありません。全世界が苦しむ中、パンデミックに立ち向かうために一致しなければならないからです。復活されたイエスが、すべての貧しい人々、社会の辺境に生きる人々、難民やホームレスの人々に希望を与えてくださいますように。世界各地の都市や郊外に生きる、これらの最も弱い立場にある兄弟姉妹たちを、孤立させてはいけません。特に今、社会で多くの活動が停止している中、彼らに生活のための必需物資や、薬・医療支援などが欠けることがありませんように。現在の状況に配慮し、国々に必要な支援の供給を妨げている国際制裁を緩和し、現在の大きな困窮を前に、収支を悪化させている負債を軽減または帳消しにするなど、最貧国はもとより、すべての国々の立場に身を置くことができますように。

今は利己主義でいる時ではありません。わたしたちが直面している試練は、皆を結集させ、誰をも区別しないからです。新型コロナウイルスの影響を受けている世界の多くの地域の中でも、特にヨーロッパに特別な思いを向けます。第二次世界大戦後、この愛する大陸は、具体的な連帯精神のおかげで再興し、その精神は過去の対抗意識を克服させることになりました。特に現在の状況下で、かつてのライバル意識に後戻りすることなく、皆が一つの家族の一員として、互いに支えあうことが急務となっています。今日、欧州連合は、歴史的な挑戦の前に立っています。それにEUだけでなく、全世界の未来がかかっています。革新的な解決策をも含め、いっそうの連帯の証しを与える機会を失ってはなりません。他の道は、一部の利害関係によるエゴイズムと、過去に舞い戻る誘惑です。それは未来の世代の平和的共存と発展を重大な試練に立たせるリスクを帯びています。

今は分裂している時ではありません。わたしたちの平和である主が、世界各地の紛争における責任者たちに、グローバルな即時停戦へのアピールに応じる勇気を与えてくださいますように。今は武器の製造と取引を続けている時ではありません。そこで使われる膨大な資本は、人々の治療と救命のために使われるべきです。シリアの長い流血の戦争、イエメンの紛争、イラクやレバノンにおける緊張を、終わらせることができますように。今この時、イスラエルとパレスチナの人々が対話を再開し、双方が平和に暮らすための、安定した恒久の解決を見出すことができますように。ウクライナ東部に生きる人々の苦しみが終わりますように。アフリカの国々で、多くの無実の人を狙うテロ攻撃がなくなりますように。

今は忘れている時ではありません。わたしたちが直面しているこの危機が、多くの人々を苦しめている他の様々な緊急事態を忘れさせることがありませんように。いのちの主が、モザンビーク北部カーボ・デルガード州のように、重大な人道危機の中にあるアジアやアフリカの人々に寄り添ってくださいますように。戦争や、干ばつ、飢餓のために、難民や避難者となった多くの人々の心を温めてください。特にリビアや、ギリシャとトルコの国境における、たくさんの移民・難民たちを守ってください。彼らの多くは子どもたちで、耐えがたい環境で生活しています。ベネズエラが具体的で即効性のある解決にたどり着くと共に、政治・社会経済・医療上の深刻な状況に苦しむ同国民への国際社会の支援が可能となりますように。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

無関心、利己主義、分裂、忘却、これらは、この時期、実に耳にしたくない言葉です。これらの言葉をすべての時代から締め出したいと思います。わたしたちの中で怖れと死が勝る時、すなわち、わたしたちの心と生活を主イエスの勝利に任せない時、これらの態度が優勢に思われるのです。死にうち勝った復活の主が、わたしたちに永遠の救いの道を開き、あわれな人類の闇を払い、終わることのないご自身の栄光の日にわたしたちを導いてくださいますように。

2020 年 4 月 11 日　主の復活の主日　教皇フランシスコ　ヴァチカンにて。

宇治カルメル会修道院 中庭

黙想の家　入口の枝垂桜

宇治カルメル会修道院　中庭

心の泉

黙想の家　聖母子像

第三巻

第二十七章　人を神から遠ざけるのは自己愛である

４　心の清さと天の知恵とを求める祈り

《神よ、聖霊の恵みで私を強めてください。あなたの徳によって、私を内的に強くし、私の心から無益な煩雑さと不安とを、捨てさせてください。それは私が、卑しい望みにも、尊い望みにも、引き入れられないためです。それらすべてに一顧(いっこ)も与えず、自分も、それらと共に過ぎ去るものであることを、私の心に固く思わせてください。この世には、一つとして長続きするものはありません。「すべては空しいもの、心の悲しみのもとです」(コヘレト１・14)、こう考えるものこそ、聡明な人と言えます。

　ああ主よ、天の知恵をお与えください！すべてのことにおいてあなただけを求め、見いださせてください。すべてのことにおいてあなたを知り、あなたを愛し、この世のことも、知恵の定めに従って、判断させてください。へつらう者を賢明に避け、反対する者を耐え忍ぶように、教えてください。言葉の風に動かされず、よこしまな海の妖精に気をとめないことは、偉大な知恵です。こうすれば、すでに始めた道を安全に歩み続けられるのです。》

第二十八章　悪口を言う人に対して

１　主

《子よ、誰かがあなたに悪意を抱き、気にかかることを言ったとしても、それに痛めつけられるな。あなたは人に言われること以上に悪い人間だ、誰よりも弱い人間だと考えなければならない。もしあなたが霊の道を歩むなら気まぐれな人の話に耳をかさないだろう。不幸な時に沈黙し、心のなかで私に向かい、他人の批評に左右されないのは、小さからぬ徳である。

２　まことの平和

　あなたの平和を、他人の言葉の上に置くな。他人があなたについてよく思うにしろ、そうでないにせよ、それによってあなたが変わるわけではない。まことの平和とまことの光栄とはどこにあるのか？私だけにあるのではないか？人に気に入られるようにと努めず、また気に入られないことを恐れない人には、大きな平和がある。なぜなら、心の平安と五官の乱れは、不実な愛と根拠のない恐れから生まれるからである。》

２０２０－５　　マリアとともに聖霊にみちびかれて

新緑の美しい季節5月を迎えます。伝統的にマリアの月とされている5月の最後の日には、教会の誕生日といわれる聖霊降臨を祝います。さまざまなことが世界規模で起こる今日このごろ、天候・生活の諸事情・状況において「美しいさつき(5月)晴れ」は必ずしも約束されていません。そのような時にこそ教会の母マリアとともに、聖霊の息吹をうけて、霊の風かおる日々としてともにいきてまいりましょう。

燃える愛の火、聖霊よ、どうかわたしの魂の中に
みことばの一つのご託身を行ってください。
わたしが主のご人性の延長となり、
主がわたしのうちに　その奥義を新たに生きること
がお出来になりますように。～聖エリザベットの祈り～

生まれつきの素質が何であろうと問題ではない。
最も重要なのは、聖霊にとらえられ、
この愛の霊によって　変容されることである。

～福者マリー・ユジェーヌ神父～

わたしたちが、聖霊の望みに
忠実に生きられるように
聖母よ、助けてください。
あまりにも弱いわたしたちの信仰を強め、
暗黒を通り抜け、
さまざまな苦悩を越えて神に至り、
神を信じることができるように。

～福者マリー・ユジェーヌ神父～

マリアよ、あなたは救いと希望のしるしとして、わたしたちの歩みを照らしてくださいます。
あなたに病者たちの健康を託します。　～教皇の祈り:ビデオミサにて

伊従 信子（いより　のぶこ）ノートル・ダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（31）

九里（くのり）　彰

前回は、評価の問題から「徳」の話に入った。

「徳」も一つの評価であるが、いわゆる数値に表す評価とは次元がまったく異なると言える。ギリシア文化にその源を持つ西欧文化では、ギリシア語のアレテー、ラテン語のヴィルトゥスが「徳」にあたるとされるが、そこでは「卓越性」「有能性」が強調されているように思われる。技能の優秀性である。

これに対し、「徳」という漢字の成り立ちは、「心」＋「直」で、心がまっすぐで素直な様を表しており、それに「彳」が加わり、「まっすぐな心で行動する」の意だそうである。ここから「望ましい美点」となり、一方では「すぐれた精神的道徳的品格」を意味し、他方では「利益、利便、得」を意味するようになったとのことである。「朝起きは三文の徳」などは後者の例であるが、単なる美点、長所ではなく、人間の生き方や精神的態度が含まれていると考えられる。

東洋と西洋の徳に対する理解の違いは微妙ではあるが、大きいように思われる。つまり、東洋では人間を全体として捉え、日々の行いや生き方を含んだものとして徳を理解しているとすれば、西洋では、どちらかと言えば、技術能力の卓越性に力点が置かれているように思われる。これがルネッサンス以降、学問や芸術の発展とともにタレント（才能）重視の西欧文化となっていったのではないだろうか。つまり、学問や芸術の分野で人がまねできないようなすばらしい業績や作品を残せば、その人自身が評価され、私生活がどんなに自堕落であろうと問題にされないといったところである。もちろん、このような考えは日本にもあるかもしれないが…。

とはいうものの、西欧の徳に対する考えは、キリスト教の影響によって、東洋の徳にまさるとも劣らない深い宗教的理解へと発展したとも言える。キリストの言葉に、それを読み取ることができる。

あなた方も聞いているとおり、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、私は言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなた方の天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくないものにも雨を降らせてくださるからである。…だから、あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全な者となりなさい。（マタ 5･43-45,48）

最後の 48 節の英訳は、”Ye therefore shall be perfect, as your heavenly Father is perfect.”となっている。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（146）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「自然と十字架のヨハネの関係」(8)

「第一は、地形で、さまざまな美しい眺めがあり、土地の具合とか、樹木とか、寂しい静けさなど、自然に敬虔な心をよびさますものである。もしこれらの場所のことも忘れて、意志を直ちに神に向かわせるならば、こうした場所を利用することは、役に立つことである。というのも、目的に達するためには、必要以上に手段や動機にとらわれていてはならないからである。なぜなら、欲求を満たすことや、感覚的な滋養を探し出すことに努めるなら、霊はひからび、心を散らすことになるからで、霊的な満足と力とは内的潜心の内にのみ見出されるものだからである」。

続く行為は、他の適切な勧告を与え、古代の隠修士の例を挙げています。すなわち、彼らは、霊的な者となろうとして、「非常に広く美しい荒れ野」(3S42,2) で、どのように振る舞うべきかを、体験によって知っていたのです。

キリストの教えと模範から引き出された最後の解釈は、次のように表されています。「また、私たちに教えられた祈りの形は、二つの内のどちらかである。すなわち、一つは、私たちの奥まった部屋に隠れることである。……もしそうでなければ、主がなされたように、人気のない荒れ野で、夜のもっとも良い静かな沈黙の時に祈ることである」(3S44,4)。

自然の前で、自然やあらゆる感覚的なものを利用しながら、それらを創造し、与えられた神が、それらによって「より一層愛され、知られる」(3S24,5) ようになり、十字架のヨハネは、その態度の実りを刈り取ることになるのです。穏やかさから、また「被造物を通して神の内にある通常の喜び」から、「このように清らかな者には、高いことも低いこともより良いものとなり、ますます清い者となるのに役立つのである」(3S26,6)。

ヨハネ修士は、――疑いなく、熱心な対神徳の生活と修行の後に――「すべてのものと共に神へと向かう」(3S26,6) 人々の一人でしょう。彼もまた、すべてのものの中に、「神の、楽しく喜ばしい、清らかで純粋な、霊的で明るく愛に満ちた考え」（同）を見出すようになったのです。

（「自然と十字架のヨハネの関係」は、これで終了）

（P. 九里訳）

復活節 第４主日

（ヨハネ１０：１－１０）

この福音の中で、イエスは、ご自分が「羊の門」であり、また「羊飼い」であるとたとえています。それに対し、門を出入りし、羊飼いに導かれる羊とは、イエスについていく人々を指しています。

どの門を出入りするかで人の生き方は変わります。「入門」という言葉は、その世界、その道に入り、歩み始めるということです。入門しなければ、当然その世界に親しみ、その道を歩み行くことはできません。イエスの世界、イエスの道というものがあります。それは、御父に愛されていることを信じ、聖霊の恵みを受け、神の光に照らされた信仰の道です。この道の中で、私たちは、イエスと親しい間柄になっていくのです。

「羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。」「羊はその声を聞き分ける。」と書かれています。呼ぶ人と、聞いて応える人の関係性が示されています。天に昇られたイエスは、今や、教会と聖書のみことばをとおして人々を呼んでいます。第一朗読では、ペトロの説教を聞き、心を打たれ、悔い改めて洗礼を受けた三千人もの人々が描かれていました（使徒言行録２・14－41）。この人々はまさにイエスの声を聞いて応えた羊たちです。また、第二朗読でペトロは、「あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻ってきたのです」と言いました（1 ペトロ２・25）。イエスは今も、教会の宣教をとおして呼んでいます。イエスは門ですが、教会も門だということができます。教会はキリストの体だからです。

大切なことは、イエスの声を聞いて従うことです。イエスの世界、イエスの道に入ることです。それは信仰の道であり、聖霊に導かれ、十字架を取って歩む道です。羊飼いであるイエスと苦楽を共にして生きるならば――人間となったイエスはわたしたちの弱さに同情できない方ではありません（ヘブライ４・15）――「牧草」を見つけ、「豊かな命」にあずかれます。牧草は生きる力の源、命は愛を生きる充実感、神の命への希望です。

新型コロナウィルスのため、教会に集えない日々が続いていますが、復活したイエスはいつも私たちと共にいます。信仰を心にかき立て、このイエスと一緒に生きましょう。イエスに向かって祈り、イエスと共に聖霊に満たされ、御父に向かって言いましょう。「アッバ、父よ」と。この信仰を日々新たにしさえすれば、私たちは「さまよう羊」ではなく、いつもイエスの羊でいられます。そして、祈りの世界にも教会があることに気づかされます。コロナが流行っていても、教会に参加できるのです。今こそ、信仰が試されているのだと思います。

（今泉健 神父）

Ａ年　復活節 第５主日

（ヨハネ１４：１―１２）

イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」

イエスは「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」と話されます。あなたはおそれたり、落胆したりする必要はない。あなたに起こることは御父が全てご存じだ。私を信じなさい、そうすれば死さえもあなたを傷つけることはできない。私は御父のところに行き、あなたを御父のところに連れていく。そうしてあなたも神の永遠の栄光にあずかることができる。

イエスは道、真理、命であり、御父である神の完全さにたどりつくための最も確実な門です。イエスは、「わたしは道を持っている」ではなく「わたしは道である」と教えますが、これを理解するのは簡単ではありません。イエスと御父は一体ですので、私たちがイエスと一つになってはじめて御父のもとに行けます。「わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる」とイエスが語る通りです。御父はイエスのペルソナを通じてご自身を示されます。イエスこそ神の真の顔、こころ、み言葉の受肉です。

イエスは真理です。真理を生きて語る者として、完全な真理を持つ唯一のお方です。イエスは、神として人間として真理を明らかにされます。神はイエスを通じて自らの真実の姿を現わす中、私たちは神を現わしてくれるようイエスにより頼みます。

イエスは命です。「万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった」（ヨハネ１：３－４）のです。私たちは皆、イエスによって生かされています。私たちの命そのものは、イエスからの贈り物ですから、初めから終わりまで尊いのです。

キリストにならうことは、キリストの教えを生きる最高の方法です。主ご自身が固有の道と完全な真理であると同時に、命を与えるだけでなく、完全な命なのです。キリスト不在のキリスト者は死人同然です。キリストの光を拒むことで恐怖に支配されてしまうからです。道、真理、命であるキリストに近づきその後に従う時、私たちは主のうちにまた主を通じて完全な命を受け取って味わいます。

教会とキリスト者の共同体の一人ひとりは、イエスの使命を続けるために召されています。イエスの道、真理、命となるために。

(Sr.Paulina)

復活節 第6主日

（ヨハネ １４：１５－２１）

今日の福音の個所ですが、最後の晩さんの際に、裏切り者のユダがその場から離れて出て行った後、イエスが弟子たちに「聖霊」を与える約束をなさった最初の場面です。

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。」その様に弟子たちにイエスは言われました。イエスのおっしゃった言葉の意味を、その時の弟子たちは、おそらく理解することはできなかったでしょう。

私たちを愛しておられる父なる神は、永遠のみことばである御独り子、そして更に、聖霊を遣わして下さり、そのお方は永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。すなわち私たちと一緒に永遠にいて下さる。この言葉に力づけられて、困難な「今」を歩んでゆくことができればと思います。

イエスは言われます。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし弟子達には、あなたがたはこの霊を知っていると言われます。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからであると…。霊を見ようとするなら、知ろうとするならば、受け入れることができるのでしょうね

ところで私たちは今、日本だけでなく世界中で新型コロナウイルスの猛威に晒され、大変ななぜこの様な状態をお許しになるのか、私たちの祈りを聴いて下さらないのか、このこたえは、私たちには解りませんし、その中で歩んでゆく必要があるのでしょう。

これまでの人類の歴史を振り返ったとき、悲しい時代、困難な時代、苦しい時代は、今以上にあったのではないでしょうか。２度の世界大戦、スペイン風邪、ペストの流行、多くの人が苦しみ、その中で人々は生き、時は流れ、次の時代へと進んでゆきます。

困難な中にあっても、私たちがともにおられる父なる神、十字架上で亡くなり復活し生きておられるイエス・キリスト。私たちとともにいて下さる真理の霊、愛の霊、聖霊。信頼のうちに三位一体の神とともに歩んでゆくことができます様に。私たちがイエスの掟…互いに愛し合うことを守り、父なる神に愛され、イエスに愛され、イエスご自身がどうかご自身を私たちに現して下さいます様に。

（Fr.　古川利雅）

主の昇天の祭日（A）

（マタイ２８：１６－２０）

本日、教会は主の昇天の祭日を祝います。これは、イエスのこの世での業の完成を記念し、またご自身の力で天に昇られたことを記念しています。ご昇天は、イエスの復活から４０日目に起こりました。

マタイの福音では、イエスが弟子たちに与えた大きな使命について述べています。この権能を正式に与える前に、イエスはご自身の力と、御父により与えられている天と地における全ての権能を弟子たちに確信させています。その後すぐに、愛する師イエスは弟子たちの中から天の王国に上げられました。

主の昇天は昔起きたことですが、イエス様の別れの言葉は今もまだ私たちに生きています。*「だから、あなたがたは行って、全ての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と聖霊の名によって洗礼を授けなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。私たちは、最初の弟子たちのように*勇敢に使命を果たし、今日の世界において忠実なあかし人とならなければなりません。イエスの昇天のお祝いは、イエスの出発ではなく、教会の中でイエス様は生きていて、終わりなく現存されることのお祝いです。私たちの主は教会というキリストの体の生きている頭です。約束されたようにいつも私たちと共にいてくださっています。けれども、今は新たな方法で共におられるのです。霊的に存在されるのです。

「行って、全ての民を弟子にしなさい」という言葉は、世界のすみずみ、全ての人々にあてはまります。人々を弟子にするということは、「道であり、真理であり、いのち」であるイエスに人々を導くことが必要です。弟子にするということは、彼らが行なうように命じられたことを行ない、掟を正しく忠実に守るように教えるということを意味しています。イエスは弟子たちにこのように行なうことを任せました、そしてまたイエスは今日でも私たちにこの任務に従うように求めています。私たちがあかしすることは、私たちの周りに言葉や行ないを通して人々を招き、弟子にする重要な点です。これは、全てのキリスト者にとって、神の愛へのあかしとなり神の愛への架け橋となるための大きな挑戦です。キリストに従う者として、愛は洗礼を受けた全てのキリスト者の印です。キリストは唯一の主であり、救い主です。キリスト者がキリストのように生き、単純で謙虚なやり方ですべての人とキリストを分かち合うことが大切です。

主のご昇天の祭日、おめでとうございます!!

(Sr. Paulina)

聖霊降臨の主日

（ヨハネ２０：１９－２３）

「あなたがたに平和！」と挨拶されたイエスは、弟子たちに息を吹きかけて言われました。「聖霊を受けなさい」と。聖霊はイエスの呼吸していたもの、イエスを生かしていた命です。それをイエスは弟子たちに吹きかけます。弟子たちも、自分と同じ呼吸で生きるようにと。

かつて、神は土から造られたアダムの鼻に命の息を吹き入れられ、人は生きる者となりました（創世記 2.7）。しかし、アダムは神から離れ、命の源である方からの霊的な息を呼吸しなくなってしまったのです。その結果が分裂や憎しみとなって表れていきます。分裂や憎しみは、愛の酸欠状態によるストレスから引き起こされます。

イエスは、そのようなストレスの中にある人間に、あらためて命の源からの息を吹き入れられます。「あなたがたがゆるせば、その罪はゆるされる」。復活のイエスの平和が、弟子たちを神の愛で包み込んだように、弟子たちも、新たに与えられた愛の息吹きを呼吸しながら、人々に神のゆるしをもたらすために派遣されるのです。

パウロは第二朗読で言います。「わたしたちは、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊を飲ませてもらったのです」（1 コリント 12・13）。弟子たちが受け継いだ、罪のゆるしをもたらす唯一の洗礼は、イエスのゆるしと平和で罪人を洗い、その人に神からの霊を飲ませます。

使徒言行録によると、炎のような舌のありさまで現れた聖霊は、弟子たちを満たし、霊が語らせるままに、いろいろな国の人々に、神の偉大な業を語らせました（2.1－11）。それは、バラバラだった人々が、神の愛によって一つになっていく出来事でした。愛の息吹きを失って、分裂していった現象とは逆の流れが沸き起こったのです。「すべての人を一つにしてください」（ヨハネ 17・21）と祈られたイエスの切なる願いが、一人ひとりのうちに実現していく時代が訪れたのです。聖霊降臨は、イエスの生涯の奉献の心が、人々のうちに具体化していく瞬間となったのです。今も、イエスの息吹きは教会をとおして人々を再生させ、生かし続けています。

（今泉健 神父）

糸巻き棒からペンへ(53)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

聖女は、健康そのものである修道女たちに、病人へ憐れみの心を持つよう願うとともに、健康でない修道女たちには、元気な修道女たちに理解を示すようにとも願っています。『会憲』に次のように付け加えています。「病人は健康そのものであった時に修めた完徳を示すように努めなさい。忍耐し、病気がそれほどひどくない時には、自分にできるほんのわずかな仕事でもするように。看護係の姉妹に従順でありなさい。その機会を利用し、何らかの益を得て病気から回復し、姉妹たちに良い感化を与えるように」。すべての姉妹が忍耐と愛徳をもって交わることが大切なのです。

聖女は、修道女の生活に午前 1 時間、午後 1 時間、濃密でリラックスした共同の時間をもうけるという新しさを導入しました。それは、「共同休憩（レクリエーション）」です。その中で、縫物をしたり、それほど注意を集中しないですむ他の仕事をしながら、詩や歌や冗談などで、その日の喜びや行き違いを分かち合うのです。すでに私たちは聖女の神秘的詩について見てきましたが、この共同休憩のために聖女によって作られたたくさんの小詩を、私たちは現在手元に持っています。すなわちご降誕祭や割礼の祝日や公現祭や聖週間のための歌、あるいは聖アンドレアや聖ヒラリオや聖カタリーナの祝日のための歌、あるいは共同体の何らかの出来事、たとえば姉妹たちの着衣式や誓願式のために作られた歌などです。しらみの大発生から解放されるよう主に嘆願する歌まであります。

あなたは私たちに新しい衣服をくださいます
天の王よ、
邪悪な人々から解放してください
この荒布の服*を

…この邪悪な群れは心を騒がせます
祈りにおいて
不完全な霊魂を
信仰において
けれども心の内におられる神よ
心をおだやかにしてください
邪悪な人々から解放してください
この荒布の服を…　　（詩 27）

*訳注：「荒布の服」は修道服の。ゆえに「私を」の意。　　（P. 九里訳）

いのちの言葉 ５月

わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。
（ヨハネ福音書 15・3）

最後の晩餐の後、イエスは弟子たちと一緒に、キドロンの谷の向こうにあるオリーブの園に向かわれます。イスカリオテのユダはすでに立ち去り、ほどなくイエスを裏切ることになります。

厳粛で緊迫した食事のあいだ、イエスは、弟子たちに最後の別れのことばを語られます。彼らが一生涯決して忘れることのないように、イエスは、大切なことを弟子たちに伝えようとされます。

ユダヤ人であり、聖書を熟知する弟子たちにとって、「ぶどうの木」は、身近な例えでした。ぶどうの木は、ユダヤ民族を意味し、聖書にはこのぶどうの木を入念に世話する熟練した農夫として、神の姿が描かれています。

ところが今、イエスご自身が、「私はぶどうの木である」、と言われます[1]。イエスは、ぶどうの木であるご自分を通して、「御父の愛」が弟子たちに浸透し、その樹液によって弟子たちは満たされるのだと。つまり、弟子たちが絶えずイエスに繋がっていることこそ最も大切なことだとおっしゃいます。

わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

イエスに繋がっているためには、イエスの言葉を受け容れることが大切です。神は、み言葉を通して私たちの心の中に入ってこられるからです。そして、私たちの心からエゴイズムを取りのぞき、私たちの心を清め、豊かな実りを結べるよう助けて下さいます。

御父である神は、どうすれば私たちの心を軽くできるのか良くご存知です。執着、裁き、自分の利益をやっきになって求めたり、あるいは、すべてを自分の支配下におきたいという欲求などといった、不必要な重荷を私たちから取り除き、私たちがもっと自由に前進できるようにして下さいます。

また一方、私たちには、良い意味での様々な望みや計画もあります。しかし、時としてそれらも、私たちの心から神ご自身の場所を奪ったり、福音的な生き方への熱意を失わせてしまったりすることがあります。

そこで、神は、様々な状況を通して私たちの生活に介入され、時には辛く苦しい体験に遭遇することもあえてお許しになります。しかし、その背後には、いつも私たちを見守る、神の愛のまなざしがあるのだということを思い出しましょう。

神の愛を信じ、神から「剪定」されるがままに自身を委ねる人に、福音は、ゆたかな実りを約束しています。その実りとは、「満ち溢れる喜び」です[2]。涙のうちにあってさえも、心の奥底から湧き出る特別な喜び、周りの人々にも伝わっていく喜びです。それは、復活の喜びをほんの少し垣間見させてくれるものだと言えるでしょう。

わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

　み言葉を生きることによって、私たちは、自分の殻から外に出ます。そこから身近な自分の家族をはじめ、同じ町内の人、様々な生活環境の中で暮らす人々との出会いが生まれます。相互愛の掟の実現をめざしながら築かれる人と人との関係から、本物の兄弟愛が芽生えてくるでしょう。

　今月のみ言葉について、キアラ・ルービックは次のように記しています。「では、イエスの励ましに、私たちはどう応えたらよいでしょうか？　神のみ言葉一つひとつを実践しながら、私たちもみ言葉によって毎瞬間養われるようにし、そうすることで私たちの生き方が絶えず福音化されていくように努めましょう。少しずつ私たちも、イエスと同じ思いと考えを持てるようになるためです。み言葉の力によって、もう一人のイエスとなって生きるなら私たちも、罪や悪がはびこるこの社会に、福音がもたらす神聖な清らかさ、心の透明さを社会にもたらしていけるようになるでしょう。

　「互いに愛し合いなさい。私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」（ヨハネ１３・34）というイエスの新しい掟、今月はこれを周囲の人との間で生きるよう努めてみてはいかがでしょうか。

　聖ヨハネは、み言葉とイエスの新しい掟との間には深い関係があると語っています。聖ヨハネは、お互いの愛のうちにみ言葉を生きるときにこそ、清めと聖性がもたらされ、罪は遠ざかり、豊かな実りを結び、神との親密な関係が生まれると語っています。

　一人ひとりが自力で生きようとしても、この世の激流にすぐ押し流されてしまうかも知れません。でも、私たちがお互いの愛のうちにいるならば、その健全な環境の中で、私たちは、真にキリスト者として生きていかれるように守られるのです。」[3]

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

1 ヨハネ福音書 15, 1-2 参照
2 ヨハネ福音書 15, 11 参照
3 キアラ・ルービック、いのちの言葉 1982 年 5 月

「トリアージ」　　石原淳子

「トリアージ」――　聞きなれない言葉でした。

わかってみれば心を深く揺るがす衝撃の言葉でした。

患者の重症度に従って治療の優先順位を決め選別を行うことを意味するそうで、究極的には、結果的には、生命の選別をするというのです。

災害や事故などで大勢の負傷者が生じた場合などに、素早く重症度をみきわめ搬送や治療の優先順位を決めて、それとわかる表示（トリアージタグ）を身体に取り付けて示す方法で別名「識別救急」と言うのだと知りました。

優先識別には四段階ありタグは黒赤黄緑と色分けされるとか。　黒とはもはやほとんど望みのない状態のものであり、軽症に向かって赤黄緑と区別されるとか。これを知ったのはいつのことだったか、何によってだったのかは覚えていないのですが、その意味するもの、それにかかわることの苦悩を想い察するとき、何かが途切れて気を失いそうです。

今、世界中が新型コロナウイルスと闘う中で、この「トリアージ」という言葉がこのところ新聞テレビ等の報道の中に再三現れるようになっています。

世界各国に蔓延するウイルスの感染は想像を絶していて、私たちは必死に力を尽くして対応してはいますが、未知のものとの闘いは熾烈を極め、日々知ることになる世界の様相には心震える思いです。　ウイルスの感染に人間の力が足りず、感染者死者が増え続ける現状に「医療崩壊」という想像を絶する悲惨な現場をテレビの映像で目の当たりにし、しかし又それでも死力を尽くす人たちの姿を知り涙すること禁じ得ません。　　イギリスだったでしょうか、医療現場従事者への感謝の気持ちを「拍手」によって表わそうという国民の、あちらこちらからの「拍手のエール」の映像には、思わず私も一緒になって手をたたいてしまったことでした。　（日本でも始まっていて、先日テレビで見ました。）

医療現場はほんとうに野戦病院と形容される状況にあり、休みなく運ばれてくる患者の呼吸困難を救う手立てがなくなり、助かったであろう生命が失われてしまうこともどうすることもできないといいます。　治療の薬もなく手探りのなかで、人工呼吸器の不足は致命的なのでしょう。

「どうしてもここに生命を選別しなければならないことが起きるんです」　という医師の悲痛な言葉を聞いたとき、心身打ち震える思いの中で私は妙に納得と言っていいような気持ちをもちました。　そういうことにもしなったのな

ら、若い人には生き延びてほしいです。　しかし思うのですが、これは老人のいのちではなく若い人のいのちをという単純な合理によってなされてはならないでしょう。　いのちといのちの間柄は、合理によって何かがなされるというものではないからです。

考えてみると私たちは自分の生きる身辺にあって、いのちの選別選択というものに遭遇しているかもしれません。　例えば出産において、母親か子どもかどちらかのいのちをという痛ましいできごとを聞くことがあります。　母胎を助けるためにこどもが犠牲になったとして、この時の選択は合理ではないでしょう。苦渋の・・断腸の・・涙を呑んで・・どうしようもなく・・

ここにあるのは何なのでしょうか。

ウイリアム・スタロインの小説「ソフィーの選択」、また周知のゲーム「トロッコ問題」――　５人の生命を救うために１人の生命を犠牲にしてよいのか、その場面に遭遇した私は何を選択するのか、如何なる態度をとるのか。

ずいぶん昔のこと、題名もあらすじも何もかも覚えていないのですが、テレビの時代劇で父と子が敵対の立場となってしまい、刃を抜いて相対するという緊迫場面で、妻であり母である女性はとっさに長刀を取って走り出て、私は息をのみました。　え？どっち？　　女性は息子に切りかかってゆきました。

この場面があとどうなったかも覚えていないのですが、瞬間これでいいと思ったこと安堵したことだけ覚えています。夫より子どもの方へエゴは動いたと思いました。動物生物に備えられたと言っていいエゴイズムでしょうか。

ここに解答、ましてや正解というものはきっとないのです。

人間だけが苦悩する力を与えられているといいます。

フランクルによって知った「ホモ・パチエンス」という言葉は、私の座右の銘と言っていい大事な言葉ですが、苦悩する人間には、時に解答のない選択を迫られることがあるのでしょうか。

その時の意識も及ばないかの深い決断は、遠くそして近い彼方からのこの言葉によって愛おしまれているはずと私は信じています。

「みなそのままでよかった　すべては御父の思し召しであるのだから」

今日は復活の主日です。　新型コロナウイルスの一刻も早い終息を切に切に祈ります。　　アーメン・アレルヤ

（上野毛教会信徒）

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　2020年４月９日

観想修道女たち ローマに集まる

今年１月３１日と２月１日にバチカンの奉献・使徒的生活会省は（CIVCSVA)イタリアの観想修道女たちのために集会を企画しました。目的はこの表題から推測されるように、教会法と民法の
仕組みに照らし合わせて観想修道女たちの共同体と女子観想修道院の会計管理にガイドラインを与えるためです。
この二日間に会計の異なる分野の専門家達によって提示されたのは、教会の権威性、修道院の不動産遺産と文化財及びその経理と貸借対照表の必要な透明性などについてでした。

祈りの祭儀はそれぞれ別に黙想を伴って行われ、CIVCSVA次官 ホセ・ロドリゲス・カルバーヨ大司教と長官 ジョアン・ブラス・ジ・アビス枢機卿 が別々に司式されました。

観想修道女たちは、初日と二日目の最終日に聖ペトロ大聖堂で教皇フランシスコ司式の教皇ミサにあずかりました。

（小宮山延子 訳）

カルメル誌　新刊案内

2019年　冬号　No.375

《祈りを学びたい人のために》*******

信仰生活(再)入門　テレーズと共に歩む　幼子の道(8)
—祈りを始めるために(4)主の祈り(後編)
片山はるひ

パウロの祈りに学ぶ(4)神の力の場である人間の弱さ
—コリントの教会への第二の手紙　田畑邦治

エディット・シュタインが教える祈り(III)　須沢かおり

現代社会において　祈りの人となるには(4)　九里　彰

****

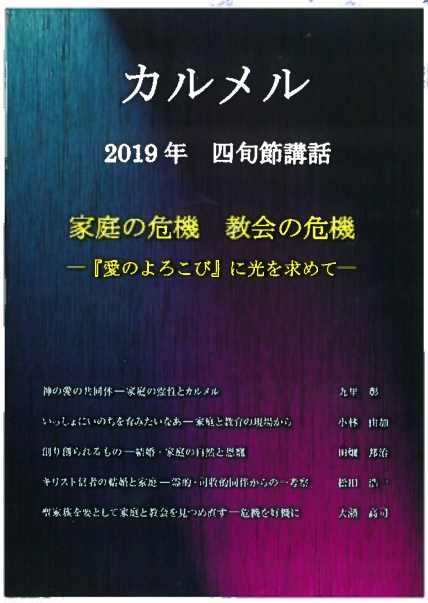
風に吹かれて(22)—虫がよすぎる　原　造

キリストに伴われて季節を巡る(8)　伊従信子

教会の「もてなし」の使命—国籍を超えた神の国をめざして
ポーリン・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(8)　九里　彰

霊的研究会講義録(6)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2019年 特集号

「家庭の危機　教会の危機」
—「愛のよろこび」に光を求めて—

神の愛の共同体—家庭の霊性とカルメル
九里　彰

いっしょにいのちを育みたいなぁ
—家庭と教育の現場から
小林由加

創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵
田畑邦治

キリスト信者の結婚と家庭
—霊的・司牧的同伴からの一考察
松田浩一

聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す
—危機を好機に
大瀬高司

ご案内　　1冊 520円　A5サイズ　50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円（+送料180円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬+特集号　計　3,500円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax:03-3704-1764

又は E-mail: hisa_ima520@ezweb.ne.jp

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL：03-3322-7601　FAX：03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

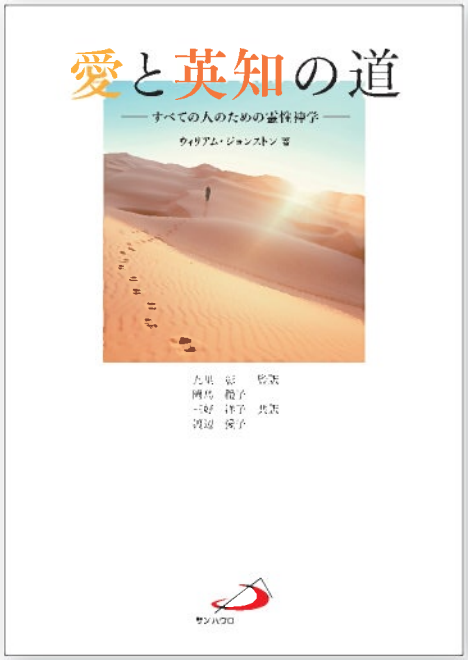
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

2020年のご案内

年間テーマ　手をとりあい、自ら歩み出す

大瀬高司 師

好評の 2019 年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

●アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
●知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
●かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
●聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
　杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
●新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
●いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
　吉川まみ（環境学者）

継続連載

●典礼暦と季節の味わい（応用編）
　柳谷晃子（食文化研究所主宰）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

○口座番号：００１７０－２－８４７４５
○加入者名：オリエンス宗教研究所
○ご購読料：７５００円（税・送料込）
○備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年 11 回、8・9 月合併号）7500 円（税・送料込）一部定価 600 円＋税

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601　Fax 03-3325-5322　https://www.oriens.or.jp/

第２版
好評発売中！

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

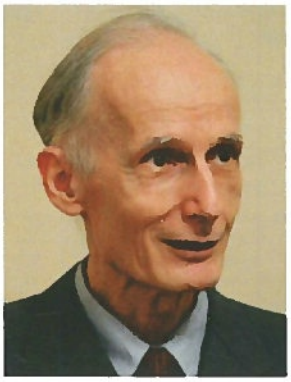
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

【クリスマス】

１２月２４日(木)～２５日(金) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会　(土曜日１８時～日曜日１６時)

５月３０日(土) ～３１日(日)　カルメル会士

７月　４日(土) ～　５日(日)

１０月３１日(土) ～１１月１日(日)

２０２１年　２月２７日(土) ～２８日(日)

一日黙想会：(水曜日１０時～１６時・昼食付)　カルメル会士

《　カルメル会聖人に学ぶ黙想会　》

５月２０日(水)　６月１７日(水)　７月２２日(水)

９月１６日(水) １０月２１日(水)　１１月１８日(水) １２月１６日(水)

２０２１年　１月２０日(水)　２月１７日(水)　３月１７日(水)

一泊黙想会　(土曜日１６時～日曜日１６時)

７月１１日(土)～１２日(日)　今泉健神父

１０月２４日(土)～２５日(日)　今泉健神父

２０２１年

１月２３日(土)～２４日(日)　今泉健神父

３月１３日(土)～１４日(日)　今泉健神父

奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士

８月　１日(土)～８月１０日(月)

８月１６日(日)～８月２５日(火)

１２月２７日(日)～１月　５日(火)

青年黙想会(男女)　３５歳位まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　　５月１５日(金)～１７日(日)
　２０２１年　３月２６日(金)～２８日(日)

召命黙想会（男女）４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）　カルメル会士
　　１１月　６日(金)～　８日(日)

特別黙想会（初日２０時～最終日１６時）Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
　　１１月１３日(金)～１５日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内

2020 年 4 月～8 月頃まで黙想の家の改修工事を行うため、その期間、宇治カルメル会での黙想会は行われません。
それ以降については、決まり次第、お知らせ致します。

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
詩編の会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２０年 － 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月　９日　「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
２月１３日　「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
３月１２日　「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
４月　９日　「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
５月１４日　「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
６月１１日　「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
７月　９日　「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会

＊　＊　＊

９月１０日　「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
１０月　８日　「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
１１月１２日　「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
１２月１０日　「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた」

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
前晩17:00まで可
www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　**申込み受付・・開始日の８日前まで**

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
サダナⅠ	5/21(木)17:30-24(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院　黙想の家（世田谷区上野毛）	来間(くるま)　裕美子※ TEL 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
沖縄 Ⅰ＆ アドバンス	5/28(木)17:30-31(日)16:00 ※通いも可能です	Fr植栗	愛楽園教会（名護市済井出）	宮城(みやぎ)　鈴代 TEL 090-4471-6456 suzuyo.t.m@gmail.com
沖縄 フォローアップ	6/1(月) 9:00-17:00	Fr植栗	聖クララ修道院（与那原町与那原）	同上
入門Ｃ	6/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※
自己を知る *1泊2日×2= 合計4日	6/13(土)10:00-14(日)16:00 6/20(土)10:00-21(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院　黙想の家（世田谷区上野毛）	同上
フォローアップ	6/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
フォローアップ 新Ⅰ	7/5(土) 9:30-17:00	サダナ チーム	同上 16 時よりミサ	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。
※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax：042-325-7554

◆サダナⅠ：サダナ１において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。
◆入門A.B.C：本来は、宿泊して営む「サダナ１」の内容を分割して体験していただくプログラムです。
◆ダイアリー：沈黙のうちに自分の生涯を観察し、神からいただいた宝を見出そうとするものです。
◆自己を知る：知識だけではなく、エクササイズやゲームなどの体験を通して自己を知り、また、分かち合いによって心を開き、他者をありのままに受け入れることを学ぶ為のワークショップです(祈りのプログラムではありません)。

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
時間：以下の木曜日
１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

【2020年】
ウィリアム・ジョンストン著『愛と英知の道—すべての人のための霊性神学—』(サン・パウロ)を少しずつ味わいながら、共に祈ってゆきましょう。

~~1月23日　序論~~　終了

~~3月26日　第一部　キリスト教の伝統~~　中止
~~第1章　背景（1）~~

5月28日　第1章　背景（1）※中止の可能性もあります

7月23日　第2章　背景（2）

9月24日　第3章　理性対神秘主義

11月19日　第4章　神秘主義と愛

12月17日　第5章　東方のキリスト教

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院　（２０２０年）

◎ 所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　１丁目　３－１
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-ﾒｰﾙ：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通：　JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 黙　想

A.　８日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 5 月 10 日（日）～　5 月 18 日（月）
② 8 月 14 日（金）～　8 月 22 日（土）
③ 10 月　4 日（日）～　10 月 12 日（月）
④ 12 月 27 日（日）～2021 年 1 月 4 日（月）

B.　祈りの体験：週末 3 日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2 月　7 日（金）～　2 月 9 日（日）
② 2 月 28 日（金）～　3 月 1 日（日）
③ 3 月 27 日（金）～　3 月 29 日（日）
④ 6 月 12 日（金）～　6 月 14 日（日）
⑤ 7 月 17 日（金）～　7 月 19 日（日）
⑥ 9 月 18 日（金）～　9 月 20 日（日）
⑦ 11 月 13 日（金）～11 月 15 日（日）

C.　講話　黙想（奉献生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食
九里　彰 師（カルメル会）

◎　対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　霊的同伴者：　司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎　申込み：1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)　2）〒住所　3）電話番号　4）希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
８日間の黙想は　先着順　１１名、週末３日間の黙想は先着２名　です。

いずれの場合も、１０日前までに申し込んでください。

D.　独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）
9月12日（土）～13日（日）
11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院　Sr.　桂川美代　（℡ 077-579-2884）

E.　その他：　司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

5月20日(水) ≪ミサと晩の祈りをうたう集い≫
中止のお知らせ

新型コロナ・ウイルス感染症「緊急事態宣言」を受けまして、

5月20日（水）開催を予定しておりました、
≪ミサと晩の祈りをうたう集い≫を中止させていただきます。

皆様のご健康をお祈りいたします。

「詩編の会」

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

数日前、ある知り合いの牧師先生から、「『カルメル会の修道士は、世の中が大変な時に、山から下りてくる』とおっしゃったことがとても印象的でした。」というお便りをいただきました。中部地区の牧師先生たちの講習会に招かれた時に、私が言ったことらしいのですが、あらためて、ハッとさせられる言葉でした。

カルメル会の800年に及ぶ歴史を眺めると、12世紀半ば、主イエスが人となられた聖地を目指したラテン系の修道者たちが、カルメル会を立ち上げた背景には、ヨーロッパ中世の行き詰まりと脱却への歩みがありました。

そして、16世紀、跣足カルメル会を開いて行った母聖テレジアや、父十字架の聖ヨハネの改革は、近世の始まりの中で、新大陸発見や、近現代産業革命の準備となる科学的な発見・発明、さらにはプロテスタント運動が渦を巻く時代でした。

さらに、幼きイエスの聖テレジアや、三位一体の聖エリザベトに代表される数多くのカルメルの霊性に連なる聖人たちの登場は、産業革命に揺れ動く、時代が新しい次元へと移ろうとしているただなかにおいてです。

彼らは、いずれも、時代が大きく移り変わろうとするピンチの時に、預言者エリヤの子孫として、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる」と叫びました。これらに一貫して流れるのは、神との親しさを生き抜く霊性です。

新型コロナウイルス感染症「緊急事態宣言」、世界がパンデミックに包まれた中で、私たちは、主から呼び集められた人々の集まりである「教会」が、集まることが出来ず、私たちのために死んで復活された主の同伴のあかしの頂点である「ミサ」の中止という前代未聞の事態に直面しています。あらためて、“個々のすべての人の命にかかわってくださっている生きる主の現存”という人生の土台の確かめが問われています。

聖ヨハネ・パウロ教皇がおっしゃっていた言葉を今あらためて味わっています。

「多方面で世俗化が進んでいるにも関わらず、世の中に霊性の要求が普及していることは、今日見られる「時のしるし」です。このしるしは、世界の大部分において、祈りの新たな必要として表面化してきたのではないでしょうか？……神秘家たちはいろいろと可能な形で体験する「婚姻による一致」の、言葉に尽くせないほどの喜びに到達します。ここで、輝かしい多くのあかしの中でも、十字架の聖ヨハネの教えや、アビラの聖テレジアの教えをどうして忘れることができるでしょうか？」（『新千年期の初めに』33）

三位一体のマリア・アウグスチヌス　中川 o.c.d.

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017 年 7 月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日　　５月２８日(木)　午前１０時頃から

宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456